

△調査・研究テーマ「横浜における創造都市戦略とその検証」について

◆（加納委員） それでは、公明党として、私から説明いたします。

まず、私ども公明党、和田委員と二人で、8月18、19日と札幌市に行っていました。

きょうのこの報告の中で、視察先の選定理由ということについてというお話でしたので、今、遊佐委員が言ったように福岡市へという気持ちも実はあったのですが、あえて札幌にいたしました。

その理由というのは、話が前後になりますが、ちょうど札幌市で札幌国際芸術祭 2014 というのをやっていたので、それを見に行こうということが一つのきっかけです。それから、札幌というのは、平成18年ぐらいから早い段階で創造都市について市全体として取り組むということで、創造都市さっぽろという形で、国際都市も含めて、創造都市について積極的に推進してきたという経緯もありました。

さらに、後で申し上げますけれども、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟という、実はユネスコで創造的な産業の育成に実績のある都市を創造都市と認定するということを行っています。創造都市ネットワークは、ユネスコがこれらの都市をネットワーク化することで世界をリードしていくという、ユネスコそのものが各国の創造都市を推進して、ある種実績のある、取り組みを推進をしている都市ということをユネスコとして認定し、世界的な形で推進をバックアップしていくというものです。そのようなことも含めて札幌市は取り組んでいるものですから、そのような政令指定都市という部分と、大都市における創造都市をどう表現していくのか、たまたまこしが札幌国際芸術祭という大きなイベントがある年でしたので、8月18、19日とまずしっかりと勉強しよう、そして都市における文化芸術を中心とした創造都市の表現の仕方について学んでこよう、こういう趣旨で札幌市に行っていました。

平成18年3月に創造都市さっぽろということをして宣言してから、平成21年には文化庁長官表彰といって、文化芸術創造都市部門の文化庁長官表彰もこの札幌市は受けております。これは大規模な文化芸術施設の整備や、それから文化イベントの開催、コンテンツ産業の担い手育成の支援、それから本市もそうですけれども、教育研究、いわゆる市立大学、そこの人材育成をどう進めていくかなど、こういった取り組みが評価されて、平成21年1月、文化庁長官表彰という文化芸術創造都市部門で表彰されていると、このような経緯も実はあります。

さらに、平成21年3月には市民会議、いわゆる行政だけではなくて、市民協働という話もありますけれども、行政だけに任せるのではなくて市民の側からさまざまな意見を発信して提言をしていくということで、いわゆる住民と行政とが一体となってこの創造都市さっぽろを推進していこう、このような流れも一つはあります。

非常に私ども横浜としては、都市における創造都市の表現の仕方、それから行政だけではなく市民と一体となってどう進めていくかということ、さらにそれが国の文化庁長官表彰という文化芸術創造都市部門で評価を受けているということや、さらにそれが世界においてユネスコに評価をされている。こういったようなところに非常に興味がありましてお邪魔しましたけれども、大したものだなと私個人としては思いました。

特にユネスコの創造都市ネットワークへの加盟については、実は申請分野については幾つかの分野別になっています。例えば文学、映画、音楽、クラフト、デザイン、メディアアーツ、さまざまな食文化、そういったいろいろな部門になっているのですが、札幌はメディアアーツの部門に手を挙げて、アジアでは一番最初、世界では2番目と言っていました。このメディアアーツという部門の中で、札幌市としてはしっかりと取り組んでいくというお話でございました。

メディアアーツ都市を目指すということの意味を勉強していきましても、メディアアーツ都市というのはデジタル技術等を用いた新しい文化的クリエイティブ産業の発展を目指す都市、デジタル技術、全く私の不得意とするところがございます。それから、都市生活の改善に結びつくメディア芸術の振興、そして文化多様性の理解や市民参加を促す電子技術の成長を牽引する都市という、いわゆる今までの文化芸術をデジタル化しながらその技術

を含めて進めていくという、ある意味では先進的な分野に手を挙げて、世界で2番目、アジアでは1番目に加盟が認定されました。

それをある種具現化する形で2014札幌国際芸術祭が行われていまして、そこも説明とあわせて、時間はなかったのですけれども、幾つかの会場にお邪魔しました。これはゲストディレクターに坂本龍一さんをお呼びして、都市と自然というテーマで行われていました。本年の7月19日から9月28日、72日間ということで、そのような中で8月に行っていました。

残念なことに、坂本龍一さんは体調の問題があって、監督も含めてなかなか出席、できていなかったようではありますが、いずれにしても札幌の環境、自然があり、それから歴史的な建造物があり、都市特有の大規模施設があり、そしてある種海外も含めて観光客をどう誘致していくかということと、それから札幌市として市民に向けて、文化都市というイメージと、その環境の中で生活をしていくという、こういう中で都市と自然という形でこの芸術祭が行われていました。

何カ所か行きましたけれども、ウィークデーですから、大勢人ががっと思集まるというよりは、むしろ自然な形で皆さん方が生活の中に、例えばショッピングの中で、気にしていくと芸術が見られるという、そのような形の芸術祭でした。本市でいうと大通り公園だとか、その公園だとか、いわゆる駅前だとか、繁華街の通りだとか、そういったようなところも多少拝見しましたが、なるほどなど、余り仰々しくなくて、ある種、本当に意識を持たないとなかなか理解できないなという流れの中での芸術祭でした。

今後の課題として、さらにネットワークを生かした交流、発信に加えて、札幌市としてのブランドを向上させること、そしてそれを観光客の皆さん方に、どうもう歩浸透させていくかということが挙げられると聞いてきました。

それから、せっかくメディアアーツということでやっているわけですから、もう一歩、国際会議等でこのようなものをさらに生かしていきたい、このようなお話もされておりました。

いずれにしても、積極的に創造都市を宣言し、それを国、それから世界に打って出て進めていくというこの熱意は、非常に私としては感心をしましたし、すごい勢いだなと感じました。一方で、本市と同じように、市内でさまざまなイベントを行なっていますけれども、都市におけるイベント、札幌の場合は自然がもう一歩ありますけれども、そこのマッチングが、私とすればもう一つ、もう二つ、もうちょっとインパクトがあってもよかったのかなと思ってまいりました。私の個人の意見ですので、あとは一緒に行きました和田委員の意見もいただければと思います。

◆(加納委員) オブザーバーで来ている横浜市の行政のほうに伺います。先ほど私どものほうで札幌、それから、今、有村委員のほうで神戸、ユネスコの問題が出ました。先ほど和田委員のほうからも話したように、日本の中でという話も一方ではあるのだけれども、こういったユネスコで創造都市のネットワークというものがつくられている。日本でいうと、私どもが知っているのは金沢市がクラフト・アンド・フォークアートというところで申請を出して、その分野に認定されていると。それから、先ほどのデザインのところで名古屋市、それから神戸市、メディアアーツ、札幌ということなのですが、このユネスコの創造都市ネットワークについて、どういう横浜市としては評価、そして、このユネスコの加盟について何か今戦略的に考えておられるのか、その辺について、突然で申しわけないのですが、御意見をいただければ、オブザーバーですが、少しお聞かせいただけないかなと思います。

◎(松村横浜魅力づくり室長) ユネスコの創造都市ネットワークのことなのですが、横浜市も創造都市に2004年から取り組んだ中で、ユネスコの創造都市ネットワークについても検討していたことがあったのです。先ほどお話がありましたように、たしか幾つかカテゴリーが絞られていて、デザイン、映像、また音楽とかあったかと思うのですが、まずデザインについては神戸市と名古屋市が最初にデザインをとってということがあって、では横浜市はどうしようかということで、ユネスコの創造都市のネットワークというのは確かにメリットもあるかとは思いますが、一方では、ある程度枠にはめられてしまう印象もあるのかなということもあって、例えばデザインだけに規定する

とか、映像だけに規定するとかではなくて、やはり横浜市独自の創造都市をやっていこうということもあって、ユネスコとは少し別の道でいこうかなということで、ユネスコではない、横浜は横浜の創造都市でいこうということで、今までやってまいりました。

◎（矢野創造都市推進部長） 今、加納委員からお話が出ましたユネスコの問題で、創造都市ネットワーク、先ほど和田委員からも出ましたが、そちらの国内のほうでは横浜市が初代幹事という形でやっております。国際的なものに目を向けようとして考えたときに、EUのほうでは欧州文化首都制度というのがございまして、こちらは1985年からヨーロッパが一体となって1都市を選定してやるという取り組みを国際的に発信していこうということでやっているところでございます。

これを参考としながら、このたび東アジア文化都市という、文化庁が主体となって行う事業をやっておりまして、横浜市がその初代の開催都市となったということでございます。国際的なネットワークとしましてはCCNJ、また東アジア文化都市、こういったものを活用しながら、横浜の創造都市施策というものをより発展させていきたいと考えております。